

原因・理由を表す because節の位置について

—学習者への指導をめぐって—

藤本 和子

1. はじめに

主にwritingの授業で、筆者が、日本人大学生からよく受ける質問に(1)のようなものがある。

- (1)「Because S + V, S + Vのように、becauseに導かれる節を主節の前に使用してはならないと習いましたが、この語順は正しくないのでしょうか」

教員としてこの質問にどのように答えるべきであろうか。ただ単にbecause節が主節に先行することの可否についての質問ならば、答えは、「原因・理由を表すbecause節は、主節の前にも後ろにも用いられる」である。しかしながら、because節を主節に先行させる場合と後続させる場合で、何が違うのかについても指導したいものである。なぜ、学習者が、because節を主節の前に用いてはならないと習ったのかを考え、because節が主節に先行する場合と後続する場合の頻度の違いや、情報の伝達効果の違いについて、改めて考えてみることは、今後の教室での、becauseの用法や、because節の位置とその効果についての指導につながるものと考えられる。Biber et al. (1999: 845) やMED2 (IW11) には、原因・理由を表す接続詞の中でもbecauseの頻度が最も高いとあり、MED2 (IW11) のデータからは、ネイティブスピーカーに

比べて、学習者がbecauseを過剰使用することが分かる。Becauseの頻度が高いこと、そして学習者が頻繁に使用する接続詞であるからこそなおさら、becauseとbecause節についての指導は重要であろう。

小西 (2006: 161) にも「根拠を表すbecause節は文頭に用いられない」と述べられており、問題となるのは、「原因・理由」を表すbecause節となる。したがって、本稿では、この「原因・理由」を表すbecause節について見てゆきたい。なお、本稿では、以下のような断片文の用法については論じない。

(2) NOT: *I am sorry I will not be able to attend the meeting. **Because** I have to visit a friend in hospital.* (Leech et al. 2001: 447)

2. 日本人大学生への調査

2.1. 回答者

「原因・理由」を表す接続詞の使用について、教職課程(英語)を履修している教育学部と文学部の2年生のそれぞれ1クラスと、文学部1年生の1クラス、合計3クラスで調査を行った。これらのクラスで調査を行ったねらいは、ひとつには、将来、中学校、高等学校の英語教員になる可能性のある教職課程の学生の様子を知るためであり、もう一つは、1年生のクラスで行うことにより、できる限り、中学校、高等学校で学んだことを調査に反映させるためである。これら3クラスを、それぞれ、クラスA、クラスB、クラスCとする。

- 1) クラスA: 教職課程(英語) 教育学部 2年生23名 (2010年1月調査)
- 2) クラスB: 教職課程(英語) 文学部 2年生29名 (2010年4月調査)
- 3) クラスC: 文学部1年生44名 (2010年4月調査)

2.2. 質問の内容

クラスA:

問1) 原因・理由を表す接続詞を用いて次の日本語を英語にきなさい。

「私はインフルエンザにかかったので数日間大学へ行けなかった」

問2) 原因・理由を表す接続詞はいくつかあるが、それらの使い分けについて今まで習ったことがあれば書きなさい。

クラスB、C:

その1:

問1) 原因・理由を表す接続詞を用いて次の日本語を英語にきなさい。

「私はインフルエンザにかかったので数日間大学へ行けなかった」

問2) 原因・理由を表す接続詞はいくつかあるが、それらの使い分けについて今まで習ったことがあれば書きなさい。

その2:

問3) Because S + V, S + Vのように、becauseに導かれる節を主節の前に用いるのは間違いであると習ったことがありますか? 下のいずれかを○で囲みなさい。

習ったことがある 習っていない 習ったかどうか覚えていない

2.3. 調査方法

クラスAは、問1と問2に答えてもらった。クラスB、Cでは、クラスAと異なり、問3のbecause S + V, S + Vの語順についての質問項目を加えた。まず、問1と問2に答えてもらい、その質問用紙を回収した直後に、問3が記された新たな質問用紙を配布し、記入してもらった。

2.4. 調査結果

2.4.1. 問1

学生の英作文には、because以外にas、since、forなどの接続詞の使用が見られたが、各クラスのbecauseの使用は、クラスA:16名(69.6%)、クラスB:20名(69.0%)、クラスC:24名(54.5%)であり、他の接続詞と比較してbecauseを使用した学生が多い。ここでは、becauseの使用についてTable 1にまとめてみよう。

Table 1 問1におけるbecauseの使用

	Because S+V, S+V	S+V because S+V	S+V, because S+V	S+V. Because S+V
クラスA	0名 (0.0%)	12名 (52.2%)	4名 (17.4%)	0名 (0.0%)
クラスB	1名 (3.4%)	17名 (58.6%)	2名 (6.9%)	0名 (0.0%)
クラスC	4名 (9.1%)	12名 (27.3%)	6名 (13.6%)	2名 (4.5%)

Table1のbecause節の位置を見ると、主節の前に用いた学生は、クラスA:0名(0.0%)、クラスB:1名(3.4%)、クラスC:4名(9.1%)であった。

その他、参考までに、「接続詞を用いて」との指示文にも関わらず、because ofを用いた学生が、クラスA:4名(17.4%)、クラスB:1名(3.4%)、クラスC:8名(18.2%)であった。Because ofは前置詞であるという指導の徹底が必要であろう。小林(1985)にも述べられている、日本人英語学習者に多いといわれるS+V. Because S+V.の断片文は、クラスA:0名(0.0%)、クラスB:0名(0.0%)、クラスC:2名(4.5%)の使用が見られた。

2.4.2. 問2

Table2に見られるように、原因・理由を表す接続詞の使い分けについて「習ったことがない」、「覚えていない」、あるいは空欄回答が、クラスAで39.1%、クラスBで62.1%、クラスCで86.4%であった。

Table 2 問2 原因・理由を表す接続詞の使い分けについて

	「習ったことがない」「覚えていない」「空欄」
クラスA	9名 (39.1%)
クラスB	18名 (62.1%)
クラスC	38名 (86.4%)

学生の回答の中から、becauseに関する記述を挙げてみよう。

クラスA:

なし

クラスB:

- sinceは文頭にきて原因・理由を表し、becauseやasは文頭でも文中でもよい 1名
- becauseは、フォーマルな文でもインフォーマルな文でも用いられる 1名
- becauseは正確に原因・理由を述べる時に用いる 1名

クラスC:

- becauseは強い原因・理由を表す時に用いる 1名
- because、as、sinceの順で原因・理由の意味が強い¹⁾ 1名

Becauseに関する記述は、3クラスで上記5件であった。これらの回答の正誤は別として、原因・理由を表す接続詞の使い分けで習ったこととして、becauseの意味の強さ、because節の位置、状況による使い分けが挙げられる。その他、クラスAでは、「Becauseに一番慣れていたので、使い分けを考えず、becauseを用いてきた」という回答が1名あった。

2.4.3. 問3

Because S+V, S+Vのように、becauseに導かれる節を主節の前に用いるのは間違いであると習ったことがあるかという問いに、Table3に見られるように、クラスB

では過半数を超える58.6%の学生が、クラスCでは36.4%の学生が習ったことがあると回答した。

Table 3 問3 Because S + V, S + Vを間違いであると習ったことがあるか

	習ったことがある	習っていない	習ったかどうか覚えていない
クラスB	17名 (58.6%)	11名 (37.9%)	1名 (3.4%)
クラスC	16名 (36.4%)	7名 (15.9%)	21名 (47.7%)

2.4.4. 考察

問1で、各クラスのbecauseの使用は、クラスA：69.6%、クラスB：69.0%、クラスC：54.5%であり、3クラスとも、接続詞の中でbecauseが一番多く用いられていた。Becauseを用い、かつ、S + V (,) because S + Vのように、because節を主節に後置させた学生は、それぞれのクラスで、69.6%、65.5%、40.9%であった。問3で、because S + V, S + Vのように、becauseに導かれる節を主節の前に用いるのは間違いであると習ったことがあると回答した学生が、クラスBでは過半数を超える58.6%、クラスCでは36.4%であった。もし、because S + V, S + Vが正しくないと習い、理由が分からないまま、S + V (,) because S + Vの構造を用いる学生がいるとすれば、becauseの使用についての指導に検討の余地があるのではないだろうか。

3. 従来の教育現場での指導例

学習者が、because節を主節の前に使用しないよう指導されることについて、(3) - (4) の記述は興味深い。

- (3) Muriel Harris of Purdue University in an article in the May 1979 *College Composition and Communication* reported surveying several hundred incoming freshmen to find out what they had been taught about writing before they came to college. Seventy-five percent of them said they had been told never to begin a sentence with *because*. This rule is a myth.

Because is frequently used to begin sentences, particularly in magazine and newspaper writing. (WDEU: 171) (下線筆者)

この調査によると、大学生1年生の75%が「決してbecauseで文を始めないように」と指導されたと回答したとある(WDEUの同ページの例文を見て、主節に先行するbecause節についてであって、断片文のbecauseの使用についてではない)。WDEUでは、このルールを「根拠のない説」と述べている。WDEUの、「*Because*は文のはじめに頻繁に用いられる」という記述に関しては、どのようなデータに基づく頻度情報が明らかではないため、頻度に関しては、4.4でQuirk et al. (1985) のデータを参照する。

- (4) There's an odd myth that it's poor grammar to begin a sentence with *because*. It seems to have resulted from grade-school teachers who were trying to prevent fragments such as this: "We came in from recess after 15 minutes. Because everyone was tired." One way to prevent third-graders from committing this error is to outlaw putting *because* at the head of a sentence. But as with so many other third-grade rules, it sweeps too broad. . . . In any event, the "rule" has never had any basis in grammar, and good writers often have occasion to put the cause before the effect (completing the subordinate clause beginning with *because* in a main clause that follows a comma) (Garner 2003: 89) (下線筆者)

Garner (2003) もまた、becauseで文を始めるのは文法的によろしくないというのは、「おかしい説」であるが、このルールは「あまりに広く広まっている」と述べている。

(3) - (4) の記述から、because節が主節に先行することは、文法的に正しいことになる。文頭にbecauseを用いないように指導するのは、学習者が(2)のような断片文を用いることを避けるための教育的配慮によるものであるが、このような指導により、学習者が、because S + V, S + Vのように、because節を主節の前に用いるのは

- 69 -

学習者がbecauseを過剰使用する理由として、原因・理由を表すbecause以外の接続詞を使用することに慣れていない、あるいは、それぞれの接続詞の用法が十分に習得できていないことが考えられるかもしれない。いずれにしても、Biber et al. (1999: 842-844) のデータにも見られるように、becauseは使用頻度の高い接続詞であるからこそなおさら、学習者が十分に習得できるような指導が必要とされよう。

4.2. Becauseの意味

原因・理由を表すbecauseの意味について (7) - (8) を見てみよう。

(7) It is also the only one of the three subordinators that unambiguously refers to reason, and is therefore the most clear choice. *As* and *since* can both refer to time, and *as* can also refer to manner. (Biber et al. 1999: 845)

(8) *Because* puts more emphasis on the reason (Swan 2005: 67)

*As*や*since*よりも、*because*を用いることによって、理由が明確に述べられたり、強調される。

4.3. Because節の文中での位置

Because節の文中での位置についていくつか記述を見てみよう。

(9) All these . . . are well-regulated uses of the conjunction *because*.
(FMEU 1996: 99)

(“All these” には、*she wept because she loved him*のように原因・理由を表すbecause節が主節の後に置かれているもの、*because we were running short of petrol, we began to look for a garage*のようにbecause節が主節に先行する用法などが含まれる)

(10) Some native speakers wrongly think that a sentence cannot begin with *because*. Yes, a sentence can begin with *because*, but it must have another clause. . . . *Because it was raining, the coach canceled the game* is a correct English sentence. (Folse 2009: 67)

(11) *Because* and its clause can go after or before the main clause.
I finished early because I worked fast.
Because I worked fast, I finished early. (Swan 2005: 82)

Because節を主節の前に用いることは、FMEUには“well-regulated”な用法とあり、Folse (2009) では、「ネイティヴスピーカーの中には、becauseを文頭 (because節を主節の前) に用いることができないという間違った認識をもっている人もいるが、becauseは文頭に (because節は主節の前に) 用いることができる」とある。Swan (2005) には、「because節は主節の後ろにも前にも用いることができる」とある。これらの記述からしても、because節を主節の前に用いることは正しいとみなされる。

次に、(12) - (13) を見てみよう。Leech et al. (2001) とMED2は、語順の可否のみでなく、頻度情報も提示している。

(12) The reason usually comes last:
MAIN CLAUSE + CONJUNCTION (BECAUSE, AS, SINCE, FOR) + CLAUSE
E.g. *The car crashed because the driver was careless.*

The reason can also come first:
CONJUNCTION (*Because, As, Since*) + CLAUSE + MAIN CLAUSE
This is a much less usual order, but is quite common with *as* and *since*.
(Leech et al. 2001: 446) (下線筆者)

- (13) It (=Because) usually comes in the second part of the sentence, after the description of the event, action, or state that it relates to.

*He writes the self-incriminating letter **because** he has promised to.*

(MED2: IW11)

Because is sometimes used at the beginning of a sentence in academic writing and professional reports, but only if it refers to the cause of something that is described later in the sentence:

***Because** they were losing their sense of identity, the Liberals were split three ways by the 1931 election.*

(MED2: IW12)

Leech et al. (2001) と MED2 によると、原因・理由を表す because 節は、通例、主節の後ろに置かれる。Leech et al. (2001) にはさらに、主節の前に用いることは、“a much less usual order” とある。

4.4. Because 節の前置と後置の頻度

(12)-(13) の記述に、原因・理由を表す because 節は、通例、主節の後ろに置かれるとあった。Table5からも、原因・理由を表す because 節の文中の位置による頻度が分かる。

Table 5 London-Lund corpus (LL) (話し言葉) と Lancaster-Oslo / Bergen corpus (LOB) (書き言葉) における理由を表す節の分布 (Quirk et al. 1985: 1107)

	LL	LOB	Total
<i>as</i>	7	19	26
initial	2	9	11
final	5	10	15
<i>because (cos)</i>	355	70	425
initial	4	8	12
medial	4	2	6
final	347	60	407
<i>for (all final)</i>	0	64	64
<i>since</i>	5	33	38
initial	2	12	14
medial	1	0	1
final	2	21	23

Because 節は、LL では、355 件中 347 件 (97.7%)、LOB では、70 件中 60 件 (85.7%) が後位で用いられており、話し言葉と書き言葉の両方で、because 節は後置される頻度が圧倒的に高い。

4.5. Because 節の前置と後置の違い

原因・理由を表す because 節は主節の後ろに用いられる頻度が高いが、4.3 と 4.4 で見たように、主節の前にも用いられる。それでは、主節の前に用いる場合と後に用いる場合で、何が違うのだろうか。次の Swan (2005) の記述を見てみよう。

- (14) *As and since are used when the reason is already known to listener/reader, or when it is not the most important part of the sentence. As- and since-clauses often come at the beginning of sentences.*

As it's raining again, we'll have to stay at home.

Since he had not paid his bill, his electricity was cut off.

Because puts more emphasis on the reason, and most often introduces new information which is not known to the listener/reader.

Because I was ill for six months, I lost my job.

When the reason is the most important part of the sentence, the because-clause usually comes at the end. . . .

Why am I leaving? I'm leaving because I'm fed up!

(NOT . . . *I'm leaving as/since I'm fed up!*) (Swan 2005: 67) (下線筆者)

Swan (2005) は、原因・理由を表す because (節) について、as (節)、since (節) と比較しながら、それぞれの節が伝える情報の内容と重要度の観点から、それらの節の置かれる文中での位置について述べている。Because を用いることにより、理由が強調され、多くの場合、聞き手や読み手にとって未知の新情報が伝えられる。文の中で、理由が最も重要な情報である場合は、because 節は通例、後置される。一方、as と since は、聞き手や読み手にとって、理由がすでに明らかな場合、あるいは、文の中で理由が最も重要なものではない場合に用いられ、as 節と since 節はしばしば主節に先行する。

新情報と旧情報について、(15) を見てみよう。

- (15) A common pattern of development in written texts is to introduce new information first in the rheme of one clause and then to treat it as given information in the theme or themes of a subsequent clause (s). Given information is that which is assumed by the writer to be known by the reader. This assumption is made either because the given information has been previously mentioned or because it is in some way shared between the writer and reader. New information, on the other hand, is

"newsworthy"—not something the writer can take for granted that the reader knows. (Celce-Murcia & Larsen-Freeman 1999: 24) (下線筆者)

Celce-Murcia & Larsen-Freeman (1999) によると、一般に、文章において、新情報は文の "rheme" に、旧情報は次の文の "theme" に現れる。新情報は、読み手が知らないとされるものであるため、"newsworthy" である。

Swan (2005: 501) によると、多くの場合、節や文において、情報は旧情報から、新情報へ、そして、情報価値の低いものから高いものへと流れるが、新情報であるからといって、必ずしも文の後方へ来るわけではなく、一般に、重要な新情報が節や文の後方へ置かれるとある。つまり、より重要度の高い情報が、通例、文の後方へ置かれるということになる。原因・理由が、伝えられるべき情報として重要性をもつならば、because 節は通例、主節の後ろに用いられると考えられる。

さらに、文章や発話は、一文のみで成立するものではなく、前後関係や、文脈の中で解釈する必要がある。Celce-Murcia & Larsen-Freeman (1999) は、従属節と主節の位置について、Ramsay (1987) に基づき、(16) のように述べ、(17) の例を挙げている。

- (16) There is a strong tendency . . . for initial subordinate clauses to be thematically linked with the material that has come before in discourse, while subordinate clauses in second position seem to be more closely linked with their main clauses. This is our justification for treating sentence-final subordinate clauses as we would any other adverbials, but classifying a sentence-initial adverbial clause as a sentence modifier. It is a sentence modifier in that it acts as a "discourse pivot," establishing links between what has come before the sentence and the main clause of the sentence it is in.

(Celce-Murcia & Larsen-Freeman 1999: 536) (下線筆者)

(17) The rivers dried up during the drought. Because there was so little water, the city imposed a water rationing program. It worked rather well. (Ibid.)

主節に先行する従属節は、主題的役割をもち、談話の中ですでに出てきていることに関連をもち、主節に後続する従属節は、より主節と密接なつながりをもつ傾向がある。主節に先行する従属節は、談話の中ですでに認識されていることと、主節の内容を結びつける。Celce-Murcia & Larsen-Freeman (1999: 536) は、(17) の第2文で、because節と主節を入れ替えるのは、“somewhat less natural”と思われると述べている。

Because節を主節の前と後ろのどちらに用いるかについては、because節が表す原因・理由の情報の重要度や、伝達の効果を配慮した情報の流れや談話の流れを考慮に入れる必要があると言えよう。

5. おわりに

今まで繰り返し学生から尋ねられた質問がきっかけとなり、学生に調査をしてみた。作文において、原因・理由を表す接続詞の中でも、becauseの使用が一番多く、かつ、because節を主節の後に用いる学生の割合が、主節の前に用いる学生の割合よりも高かった。このこと自体は、本稿で見たbecauseの頻度、そしてbecause節の位置の頻度に一致する。しかしながら、なぜ、原因・理由を表す他の接続詞ではなく、becauseを用いるのか、そして、なぜbecause節を主節の後に用いるかということを理解したうえで用いているかどうかは疑問が残る。今回の調査で、学習者一般の傾向を述べることは決してできない。今後、さらに広範で本格的な調査が必要であることは言うまでもない。Becauseについて、もし現在でも、第3章で見たWDEUやGarner (2003)にあるような指導がなされているとすれば、筆者が尋ねられたような質問が、今後も繰り返されることも予想できる。Because節は、主節の後に置かれる頻度が高いが、主節の前に置かれることもある。「Because節を主節の前に用いることはできない」あるいは「Because節は主節の前と後ろのどちらに用いてもよい」という指導ではなく、学習者には、because節が用いられる位置と、その理由を、情報の重要度や、情

報、談話の流れの観点から指導する必要があるのではないかということを改めて強調したいと思う。

Notes

- 1) 安藤 (2005 : 607) には、理由を表す接続詞は、because、since、asの順に意味が強いと述べられている。
- 2) MED2が基づくコーパスデータについては、MED2 (IW2) 及び、Macmillan Publishers Limitedのウェブページの情報を参照のこと。
Macmillan English Dictionary. 2009. Macmillan Publishers Limited.
<<http://www.macmillandictionaries.com/home.htm>>

References

- 安藤貞雄. 2005.『現代英文法講義』東京：開拓社.
- Biber, D. et al. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education Limited.
- Burchfield, R. W. 1998. revised 3rd ed. *Fowler's Modern English Usage*. Oxford: Oxford University Press. (FMEU)
- Celce-Murcia, M. and D. Larsen-Freeman. 1999. *The Grammar Book*. 2nd ed. Boston: Heinle & Heinle.
- Eastwood, J. 1994. *Oxford Guide to English Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
- Folse, K. S. 2009. *Keys to Teaching Grammar to English Language Learners*. Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Garner, B. A. 2003. *Garner's Modern American Usage*. New York: Oxford University Press.
- Granger, S. (ed.). 1998. *Learner English on Computer*. Harlow: Longman.
- Greenbaum S. and R. Quirk. 1990. *A Student's Grammar of the English Language*. Harlow: Longman Group UK Limited.
- Halliday, M. A. K. 1985. "It's a Fixed Word Order Language is English." In J. J. Webster (ed.), *Studies in English Language*, 213-231. London: Continuum.
- Halliday, M. A. K. and R. Hasan. 1976. *Cohesion in English*. London: Longman Group Limited.
- Huddleston, R. and G. K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 小林雄一郎. 2009.「日本人英語学習者の英作文におけるbecauseの誤用分析」『関東甲信越英語教育学会紀要』第23号, 11-21.
- 小西友七 (編). 2006.『現代英語語法辞典』東京：三省堂.
- Leech, G. et al. 2001. *An A-Z of English Grammar & Usage*. Harlow: Pearson Education Limited.
- Quirk, R. et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman Group UK Limited.

- Ramsay, V. 1987. "The Functional Distribution of Preposed and Postposed 'If' and 'When' Clauses in Written Discourse." In R. S. Tomlin (ed.). *Coherence and Grounding in Discourse*, 383-408. Amsterdam: John Benjamins.
- Sinclair, J. (ed.). 2004. *Collins COBUILD English Usage*. 2nd ed. Glasgow: HarperCollins.
- Swan, M. 2005. *Practical English Usage*. 3rd ed. Oxford: Oxford University Press.

Dictionaries

- Macmillan English Dictionary for Advanced Learners*. 2nd ed. 2007. Oxford: Macmillan Education. (*MED2*)
- Webster's Dictionary of English Usage*. 1989. Mass.: Merriam-Webster Inc. (*WDEU*)